

# 議 会 報 告 第4号

(ホームページもご覧下さい <http://www.ojima-shinichi.com/>)

新しい筑西市を創る会

0296-24-8951

市議会議員 小島 信一

筑西市下野殿 801-1



SHINICHI OJIMA OFFICIAL WEBSITE



## 3月定例会より 報告

23年度一般会計補正予算.....48億円(国補助金 15億円、市債25億円、他 8億円)

24年度一般会計予算.....365億円 (補正を包含すれば 413億円)

歳入から

(年度末の補正の包含値)

市 税(住民税や固定資産税—直接市民から徴収する歳入)・・140億円 (149億円)

地方交付税交付金等(国、県が税徴収して市に交付する歳入)・・ 90億円 (96億円)

国庫支出金・県支出金(特定事業で国、県が負担する部分)..... 66億円 (76億円)

市 債 (事業を行うに当たっての借入金) ..... 27億円 (42億円)

(内臨時財政対策債 20億円)

その他 ..... 42億円 (50億円)



### 私から見た問題点

1. 市税と地方交付税交付金等、臨時財政対策債を合わせて一般財源(250億円)といいますが、市当局が予算を組むにあたって自由度のある財源です。これ以外の歳入は用途が決まっています。また、一般財源の中から、人件費、市庁舎等の維持費、光熱費、生活保護費、特別会計等への繰り出し金、市債の返済などの経常的費用が支払われます。筑西市では、次年度の予算では一般財源の殆どが経常的費用に充てられています。投資的事業予算がなく硬直しています。

次年度の起債(借金)計画は、年度末に25億円の起債を補正で組みましたので実質42億円であり市債残高は400億円と膨らみ、ここ数年増加傾向です。一般財源が250億円程度のなか、公債費(借金返済)は40億程度が限界、一方で今後も市債発行は26年度までは毎年40億円以上予定されていますので今後の財政は借金体質から抜け出せません。



2. 市民病院関連予算が今年度も増加しています。昨年大震災で被害を受け、満足な医療サービスを提供できなかったため補正予算を2度に渡り計上(一般会計からの繰り出し額は合計約15億円)しましたが、医療機器、建物が一応の復旧を達成した今年度においても一般会計から8億円を繰り出す計画です。このままでは毎年10億円前後の赤字が固定してしまいます。病院側の説明では医師不足が大きな原因であり、そのため医療収益に繋がる患者数が減少しているということです。その対策として寄付講座制度があります。

寄付講座・・大学の教育や研究の活性化を目的に設置され、市や企業などからの資金援助を受けて運営される。医科大学の場合、資金援助を受ける見返りに医師を派遣する契約を結ぶことが広く行われている。筑西市では、日本医科大学、自治医科大学、東京医科大学、に寄付講座を設けそれぞれ4人、2人、3人の医師の派遣を受けています



3. 本庁舎の耐震補強工事費が予算化されませんでした。

本庁舎については、これまでも報告して参りましたが、まだまだ十分使えます。廃棄するような建物ではありません。ただ旧耐震基準の建築物ですので、耐震補強工事は必要です。公共施設の耐震化は、法的に義務付けられています。筑西市では24年度に市役所本庁舎を補強する予定でしたが、議会から本庁舎をスピカに移転するよう要望書がだされ、身動き出来ない状態となっています。本庁舎のスピカ移転は問題が多すぎます。

4. スピカビル1階のテナント募集（駅前活性化）の予算が計上されませんでした。

スピカビルの売却が否決されて半年経過しますが、市議会と市当局の意見がくい違い、何ら計画が進みません。



### 市民アンケートを予定

市当局は、公共施設の今後のあり方を、タウンミーティング、行政改革懇談会、公共施設あり方検討委員会など、いくつかの手法により検討してきましたが、重要施設であるスピカビル、市役所本庁舎、市民会館について、議会の要望と相容れない結論となり、これを打開するために、市民アンケートを実施する予定です。しかし、市当局と市議会の現実を踏まえた歩み寄りが最も必要ではないでしょうか。

### ..... 一般質問..... 小島信一

#### コミュニティプラザとスピカ1階の利活用について

先の震災で市民会館が閉鎖されました。これを利用してきた市民は代替施設としてイルブリランテ、ペアーノ、アルテリオ、民間施設を利用していますが、一番距離的に近いホールはスピカ6階のコミュニティプラザです。しかし、2年ほど前から管理の問題で市民の利用を制限しています。今ほどその需要が高まっている時期はありません。新市民会館の建設を望む声がありますが、相当の期間の準備・議論が必要です。早急に、コミュニティプラザの民間利用の再開を実現すべきと考えますがいかがですか。

また、スピカビル1階は、駅前の顔と言うべきものですが、シャッターが閉まったままでは駅前振興に暗い影を落とします。早急にオープンしてほしいのですがテナント誘致に関して何ら予算付けなされていません。ここに関しては、議会の要望書でも商業的あるいは市民サービスの利用とあります。市長の駅前振興策と共通するものです。市は積極的にテナント誘致に力をいれるべきと考えますがいかがですか。

#### 答弁（担当部長）

コミュニティプラザに関しては、スピカビルの売却を進めていた関係上、施設管理委託を廃止したため、照明施設や音響設備を使用した催しものに対応できない。そのため2年前から、一般市民への貸し出しを制限しており、スピカビルの利活用の最終方針が決定していない現在、やむを得ないところです。

スピカビル1階については、中心市街地活性化のためにも確かに1日も早い再開が望まれますが、この問題も、スピカビル全体の方向性が定まるまでやむを得ないものです。スピカビルの方向性は、今後予定している市民アンケートの結果や公共施設のあり方懇談会の意見、議会の要望を取り入れて決定されるものと考えます。

#### 重要公共施設の配置について

旧市街地既存の大型の公共施設である筑西市中央図書館、アルテリオ（美術館、地域交流センター）、シビックコアと呼ばれる合同庁舎、スピカビル、市役所本庁舎、武道館、市民会館について、配置、駐車場、交通アクセス、経済効果、地域社会への影響にかんする検証はしているのでしょうか。今後、重要公共施設に関する計画がなされる際にはこれらの検証は必須だと思います。

重要公共施設は、一般の公共施設と違い戦略的施設でもありません。配置、規模の計画は筑西市の将来の都市構想が判断基準になると思います。少子高齢化、人口減少を肯定的にとらえ、集約型の都市構想をとるのか、緩やかな拡張、発展型の都市構想をとるのか、市長の考えを伺います。

#### 答弁（市長）

重要公共施設については十分な議論が必要と考えています。合併により多くの施設を抱えている現状を見直す必要もあり、適正配置について検討を行っています。

旧市街地への集約化か、外に広がりを求めるかはまさに本市のマスタープランに基づく都市構想の中で考えるべき問題です。都市構造の一体感を形成していくことを前提に地域の相互理解を図りながら、発展型の都市構想を目指すべきだろうと考えます。